平成二十八年度　沢保育園建設事業に伴う
埋蔵文化財第五次緊急発掘調査報告書

丸山遺跡

2017年　長野県上伊那郡箕輪町教育委員会

例　　言

1　本書は、平成28年度に実施した、長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪1,891番地他に所在する、丸山遺跡の発掘調査報告書である。

2　遺跡の発掘調査及び整理作業等の記録保存業務は、箕輪町教育委員会が実施した。

3　本書の作成にあたり、作業分担を以下のとおり行った。

遺物の洗浄・注記・接合－市川和枝、川上文代、小林成美、白鳥弘子、根橋とし子、濱彩織

遺物の実測・トレース・拓本－市川和枝、川上文代、白鳥弘子、白鳥航、根橋とし子、濱彩織、井澤はずき

遺構図の整理・トレース・挿図作成・図版作成－井澤はずき

写真撮影－柴　秀毅、征矢　進、征矢卓巳、井澤はずき

4　本書の執筆・編集は、柴　秀毅、井澤はずきが行った。

5　調査現場の空中写真撮影は、㈱小林コンサルタントに委託した。

6　発掘箇所の記録は、世界測地系座標により位置を落とした。

7　出土遺物及び図面写真類と本書作成に関わる図版写真類は、すべて箕輪町教育委員会が管理し、箕輪町郷土博物館に保管している。

8　調査及び本書の作成にあたり、下記の方々並びに機関にご指導ご協力をいただいた。記して感謝申し上げる。

沢区／沢保育園／辰野町教育委員会／長野県教育委員会／長野県立歴史館／
明治大学黒耀石研究センター／会田進／阿部芳郎／大竹憲昭／小池孝／白沢勝彦／寺内隆夫／
福島永／藤山龍造（敬称略）

凡　　例

1　挿図

・挿図の縮尺は、各図の下部に表記した（スケールを有するものも含む）。

・遺構実測図中におけるスクリーントーン及び記号による表示は、以下のものを表す。

●－土器　　－石

・土器実測図中のスクリーントーン表示は、以下のものを表す。

－剥離部分　　－欠損部分

2　土器及び遺物観察

・土層及び土器の色調は、『新版　標準土色帖』を用いて記してある。

・出土土器観察表の法量の単位はセンチメートル（㎝）で、残存度はパーセントである。また、現存する数値は「（　）」、推測される数値は「〈　〉」、計測不能は「－」で表している。

・出土金属器と石器観察表重量の単位はグラム（g）で表している。法量は、現存する数値は「（　）」で、計測不能は「－」で表している。

・出土遺物の番号は、土器はカッコなし、石器は○、土製品は□で区別している。

序

箕輪町は伊那谷の北部にあり、豊かな自然に恵まれた、歴史と文化のある町です。先史の頃よりこの地の生み出す自然の恵みを求めて人々が暮らし始め、各時代を生きた先人達の努力によって今日の町の姿が築き上げられてきました。町内には、彼らが残した証である多くの遺跡が残されています。

今回調査対象となった丸山遺跡は、箕輪町北部の沢区のほぼ中央に位置し、天竜川右岸の段丘突端部に位置しています。周辺は西天竜用水路の開設によって水田地帯となりましたが、近年の人口増加もあって、住宅地に変わりつつあります。

当該地では、バイパス建設工事等に伴い過去４回の調査が行われ、縄文時代及び奈良・平安時代の竪穴住居址を主体とする遺構と、それに伴う多くの遺物が出土し、それぞれの時代に集落形成がなされていた事がわかっています。特に、縄文時代の住居址は24軒検出され、町内において同時代の指標となる遺跡になっています。

今回、沢保育園が老朽化により新園舎を建設する事になり、これに伴い町教育委員会が工事に先行して発掘調査を実施しました。調査中には多くの方が見学に訪れ、遺跡の様子に触れていただいた事は大変喜ばしい出来事でした。調査の成果につきましては、本書の各章にて詳細に記してあります。本書を広く活用いただく事で、地域の歴史解明の一助となり、また、多方面の文化財保護に役立つ事を切に願うものであります。

最後になりましたが、今回の調査の実施にあたり、多大なるご理解とご協力をいただきました沢保育園の関係者の皆様をはじめ、地元沢区の皆様、ご指導いただきました先生方、そして暑い中をご尽力いただきました調査関係者の皆様方に、本書の刊行をもちまして心から感謝申し上げます。

箕輪町教育委員会

本　文　目　次

例言・凡例
序
本文目次
挿図目次・表目次

第１章　発掘調査の概要…… 1
　第１節　調査に至る経過…… 1
　第２節　調査概要と体制…… 2
　第３節　調査の経過…… 2

第２章　遺跡の環境…… 3
　第１節　地形と地質…… 3
　第２節　周辺の歴史的環境…… 4

第３章　調査結果…… 6
　第１節　調査方法…… 6
　第２節　土層堆積状況…… 9
　第３節　遺構と遺物…… 11
　　１　竪穴住居址…… 11
　　２　土坑・ピット…… 15
　　３　遺構外出土遺物…… 18

第４章　総括…… 24

参考・引用文献
図版
報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　調査地位置図
第２図　周辺遺跡分布図
第３図　調査区設定図
第４図　調査区トレンチ設定及び遺構位置図
第５図　遺構位置図
第６図　土層断面図
第７図　トレンチ土層断面図（１）
第８図　トレンチ土層断面図（２）
第９図　１号竪穴住居址・土坑・ピット実測図
第10図　１号竪穴住居址出土土器・石器実測図
第11図　２号竪穴住居址出土石器実測図
第12図　２号竪穴住居址実測図
第13図　土坑実測図
第14図　土坑・ピット実測図
第15図　土坑出土土器・土製品・石器実測図
第16図　遺構外出土土器実測図（１）
第17図　遺構外出土土器実測図（２）
第18図　遺構外出土石器実測図（１）
第19図　遺構外出土石器実測図（２）
第20図　遺構外出土土器拓影図

表　目　次

第１表　周辺遺跡一覧表
第２表　トレンチ土層一覧表
第３表　土坑一覧表
第４表　ピット一覧表
第５表　出土土器観察表
第６表　出土土製品観察表
第７表　出土石器観察表

第１章　発掘調査の概要

第１節　調査に至る経過

丸山遺跡は、箕輪町沢区に位置し、中央・南両アルプスの上昇に伴う地殻変動によって形成された段丘上に所在する。遺跡地からの展望も良く、西方に中央アルプス、天竜川をはさんで東方には南アルプスが展望できる。遺跡地は天竜川右岸より一段高い段丘上に位置し、保育園や宅地が立ち並び、田畑などの耕作地も点在している。

丸山遺跡は国道153号バイパス建設工事等にあわせ、過去４回の発掘調査が行われ、縄文・平安時代を主体とした遺構・遺物が出土している。

今回、沢保育園の園舎老朽化により、新園舎建設工事が具体化し、平成26年10月に町こども未来課より連絡を受け、建設予定地が本遺跡包蔵地にあたることから、埋蔵文化財の保護に関して協議を重ね、平成27年10月、用地内の遺構の有無を確認するため、試掘調査を実施した（第４図・１～６トレンチ）。その結果、用地内の北東部において遺構と遺物が確認されたため、再度二者による協議を行い、遺構が残存する北東部は全面発掘調査を行うこと。また、試掘調査が実施できなかった箇所にはトレンチを設定して（第４図・７～14トレンチ）遺構の有無を確認し、記録保存を行うこととなった。なお、業務は町教育委員会（文化スポーツ課）が実施した。

第１図　調査地位置図（１:50,000）

第２節　調査概要と体制

１　遺　跡　名　　丸山（まるやま）遺跡

２　所　在　地　　長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪1891番地　他８筆

３　事業期間　　平成28年４月27日～平成29年３月22日

４　事　務　局

教　育　長　　唐澤義雄

文化スポーツ課長　　唐澤勝浩

文化財係長　　柴　秀毅（箕輪町郷土博物館　学芸員）

非常勤職員　　井澤はずき（　〃　学芸員）

非常勤職員　　宮下美鈴（　〃　）

非常勤職員　　白鳥弘子（　〃　）

５　調　査　団

調査団長　　唐澤義雄

調査副団長　　唐澤勝浩

調査担当者　　柴　秀毅、井澤はずき

調査団員　　有賀多恵子、市川和枝、今関貞夫、大串　進、大槻敏子、岡　文行、唐澤栄治、唐澤清光、川合佐一、川上文代、白鳥　航、根橋とし子、濱　彩織、堀川利平、松崎仲子、吉江夏樹（※50音順）

第３節　調査の経過

４月27日　調査地の西南にある駐車場の立会調査。

５月10日　トレンチ設定。安全対策のバリケード設置。

11、12日　調査用重機（バックホー）を搬入し、北東部の表土除去と７~10トレンチ掘り下げ。

13～18日　遺構確認作業。１、２号住居址、土坑１~４、ピット１検出。

19～23日　１号住居址、土坑１~４、ピット１掘り下げ。写真撮影・測量。土坑５~９検出。

24～31日　土坑５~９、７~10トレンチ写真撮影・測量。土坑10~13、ピット２~４検出、写真撮影等。

６月１日　中学生職場体験、２号住居址の掘り下げ。

３日　調査区北東部及び７~10トレンチ全体測量。

７日　午前 沢保育園年長組、午後 箕輪北小学校３年生見学及び発掘体験。

８日　午前 箕輪北小学校６年生見学及び発掘体験。２号住居址掘り下げ。

14日　午前 箕輪北小学校４年生見学及び発掘体験。２号住居址写真撮影。

15日　２号住居址測量。

22～24日　11~14トレンチ設定、重機による掘り下げ、写真撮影、測量。

29日　ドローンによる空中写真撮影。

６月30日、７月１日　重機による埋め戻し。

８日　コンテナハウスの搬出。現場での調査終了。

次に、箕輪町のもう一つの特徴的な地形景観である段丘に目を向けると、竜西地区では、天竜川より２ないし３列からなる階段状の崖として確認できる。伊那谷各地でみられるこの段丘崖は、以前は天竜川が形成した河岸段丘と考えられていたが、現在では活断層の活断運動によって造りだされた断層崖ということが各地で確認されている。箕輪町でも、局地的な地質調査が進めば、この段丘がどのように形成されたかがわかるであろう。一方竜東地区では、唯一沢川の造りだした扇状地の南側だけが平坦な地形である。他の地域は山が近いせいもあり、変化に富んだ地形を造りあげている。特に最南端の福与地区では、天竜川に流れ込む中小河川が小規模な扇状地を掘り込んだ結果、丘陵地形が配列し、地形変化を更に複雑にしている。しかしながら、現在では構造改善が進み、そうした地形の複雑な変化は古い写真や地図で確認できるだけという場合が多く、元の地形を推測するのは難しくなってきている。地形と同じように、竜東と竜西では地質の面においても対照的で基盤岩の質も異なる。竜東側では基盤岩を覆っている被覆層は、比較的浅く断片的であるため、支流の川沿いには基盤岩が広く露出し、天竜川まで続いている。竜西側では、竜東に比べ被覆層が厚いため基盤岩の露出は少ない。また、御岳テフラの終息期以降も各支流より礫の押し出しが続き、後氷期の黒ボク土までを含む土壌と砂礫が混合して、扇状地の地形が続いたとされる。

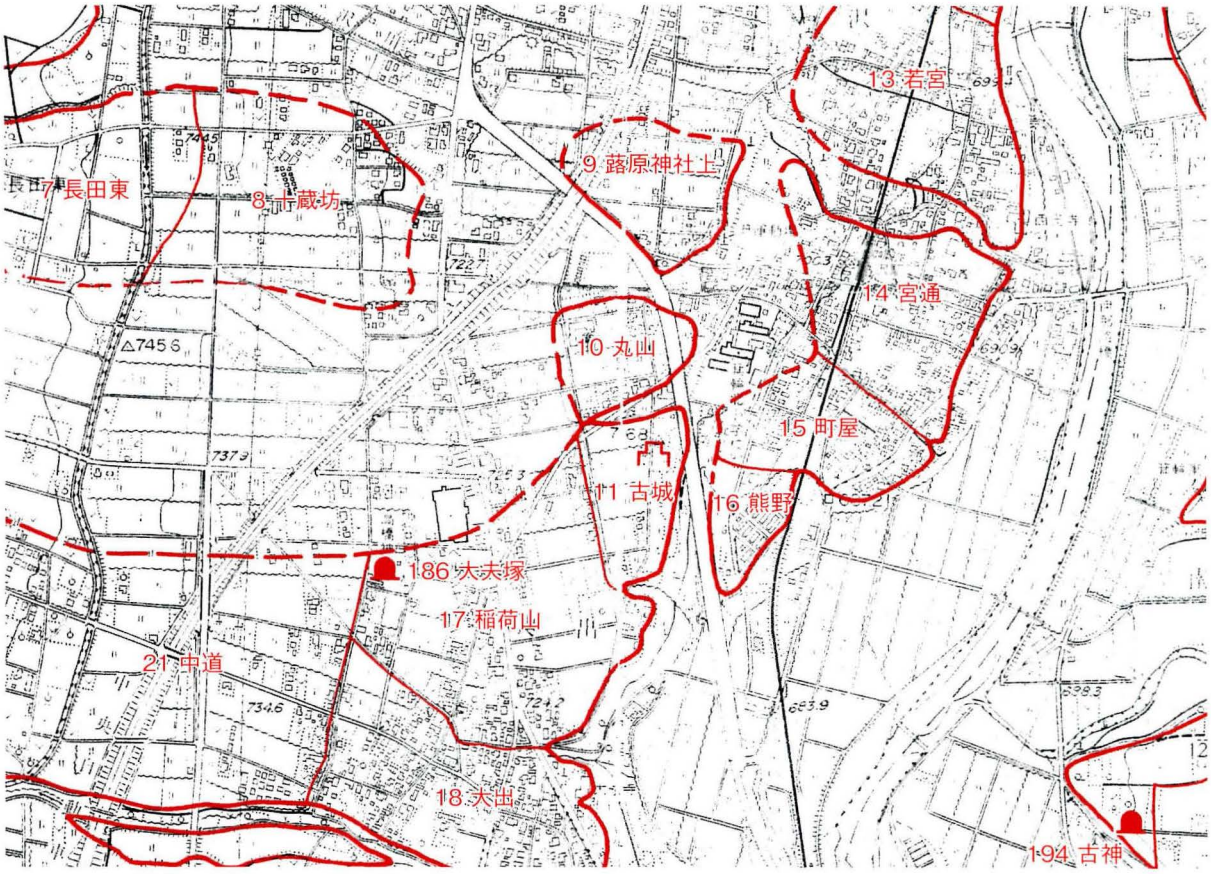
今後箕輪町においても、遺跡が立地する環境を理解するために、更に詳しい地質調査が必要となるであろう。

第２節　周辺の歴史的環境

箕輪町は、東西の複合扇状地を流れる中小河川や段丘下の湧水など水源に恵まれており、先史より人が暮らしやすい好的な場が多い。町内には、先人たちが残した足跡ともいうべき多くの遺跡が残されており、平成６～８年度に実施した箕輪町遺跡詳細分布調査では、包蔵地182箇所、古墳27基、城跡13箇所を確認し、上伊那郡下においても屈指の遺跡地帯といえる。

今回調査対象となった本遺跡を含む天竜川右岸には、河岸段丘の突端部にみられる遺跡と、桑沢川や深沢川などの天竜川に注ぐ小河川の両岸に存在する遺跡が分布している。かつてこの扇状地は灌漑用水に恵まれず、山林・原野が多く川沿いの一部にしか耕作地がなかったが、大正から昭和にかけて西天竜幹線水路が建設され、それに伴い大規模な農地構造改革が行われた。このような開発により、扇状地や段丘突端部に位置する遺跡は上部を削平され、一部で破壊されているものもあると思われる。

段丘突端部に位置する丸山遺跡（10）では、これまでに縄文・平安時代の住居址が確認されている。本遺跡と洞を隔てた北には蔭原神社上遺跡（９）があるが、桑沢川沿いにもかかわらず、遺跡分布調査では遺物等がほとんど確認できなかった。段丘下には宮通遺跡（14）、町屋遺跡（15）、熊野遺跡（16）等があり、遺跡分布調査では主に縄文時代と平安時代の遺物が見つかっている。さらに本遺跡の西南には中道遺跡（21）がある。中央道建設に伴う発掘調査により、縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡である事が確認され、町教育委員会の調査でも、縄文時代の土坑や古墳時代から奈良時代にかけての遺構・遺物が見つかった。特に古墳・奈良時代の遺物は多く、東山道との関係も推察される。



第２図　周辺遺跡分布図（１：12,500）

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代								立地	地目	備考
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	近			
10	丸山	沢		○			○	○			段丘突端	宅地・畑・田	調- 平元・５・12年
7	長田東	〃		○				○			扇央	宅地・畑・田	
8	十蔵坊	〃		○							扇央	宅地・田	
9	蕗原神社上	〃		○							段丘突端	宅地・田	
11	古城	〃		○				○	○		段丘突端	宅地・畑	調- 平元年　城跡含む
13	若宮	〃		○				○	○		扇状地	宅地・畑	
14	宮通	〃		○				○			扇状地	宅地・畑	
15	町屋	〃		○		○		○	○		扇状地	宅地・畑	
16	熊野	〃		○							扇状地	宅地・畑・田	
17	稲荷山	沢～大出		○		○		○			段丘突端	宅地・田	
18	大出	大出		○				○		○	段丘突端	宅地・畑	
21	中道	大出～八乙女	○	○		○	○	○	○		扇央	宅地・畑・田	調- 昭48・63・平５・６・13・14年
186	大夫塚古墳	大出				○					扇央	神社境内	現存

第１表　周辺遺跡一覧表

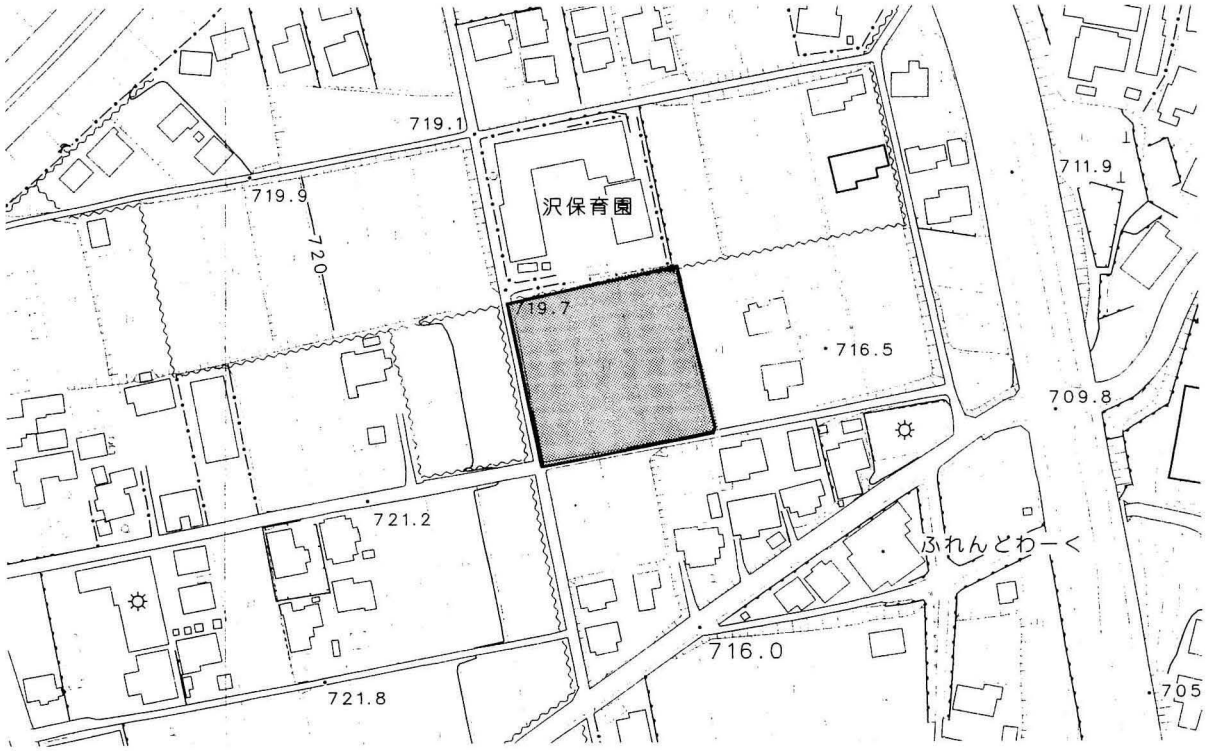
第３章　調査結果

第１節　調査方法

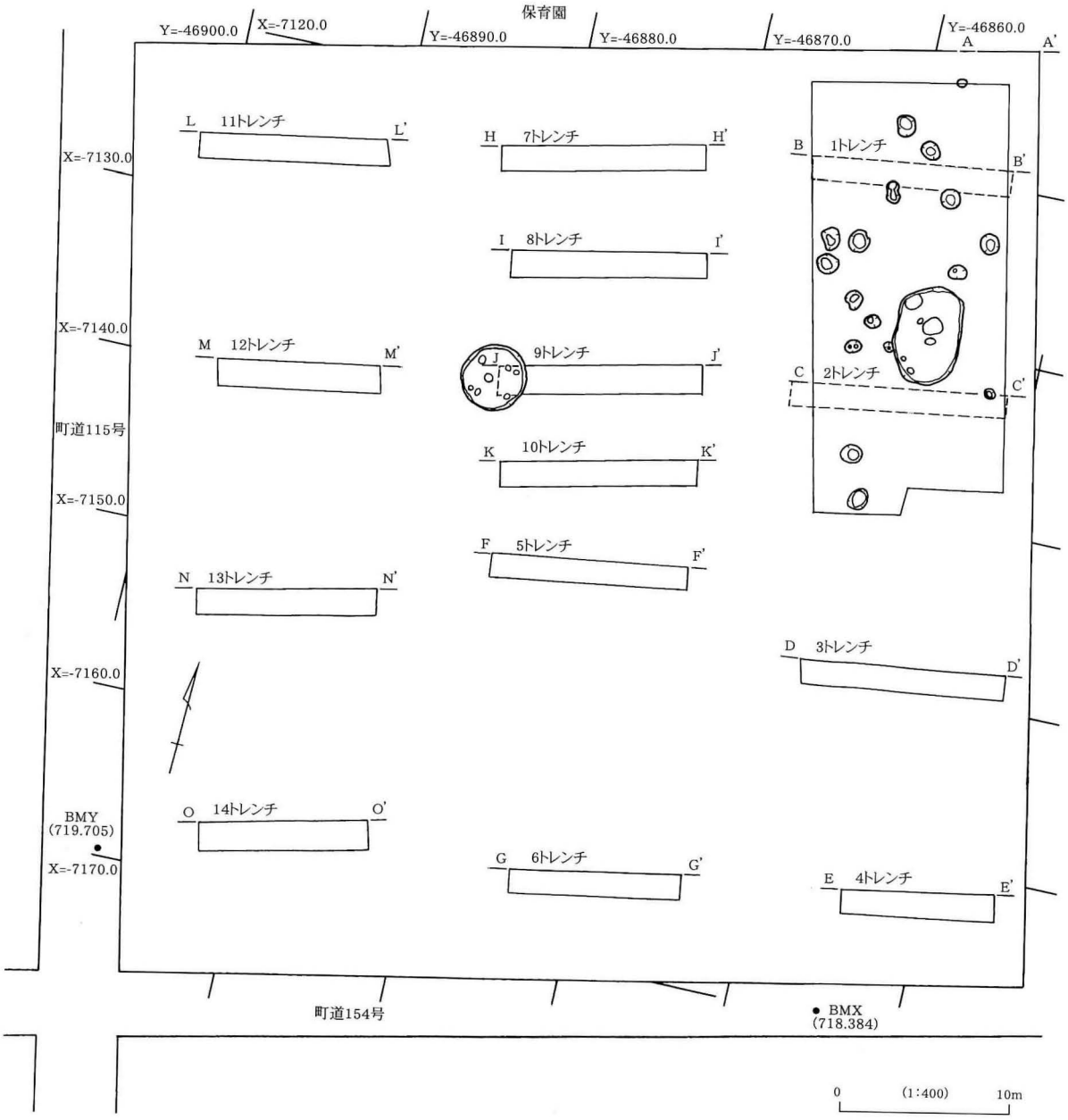
本調査に先立って、事前に試掘調査を実施した。建設予定地の中で、駐車場や畑として利用している箇所を除いた、東側と中央南側にトレンチ６本を設定し（１～６トレンチ)、大型重機により遺構確認面直上まで表土を除去し、人力による遺構検出作業を進めた。その結果、調査区東側の中央～北にかけて遺物が多く見つかったため、その箇所は全面的な発掘調査を実施することとした。また、試掘調査ができなかった箇所については、本発掘調査と同じタイミングでトレンチを設定し（７～14トレンチ)、遺構の有無を確認する事にした。なお、発掘調査は、新園舎建設工事によって文化財が消滅する事が予測される約2,800㎡のうち、遺構が検出された約420㎡を対象とした。

作業手順としては、まず大型重機により遺構確認層直上までの表土を除去し、続いて人力による遺構検出作業を進め、検出した各遺構の掘り下げを行った。各遺構より出土した遺物は、各遺構の覆土中の土器片については層位ごとに取り上げた。

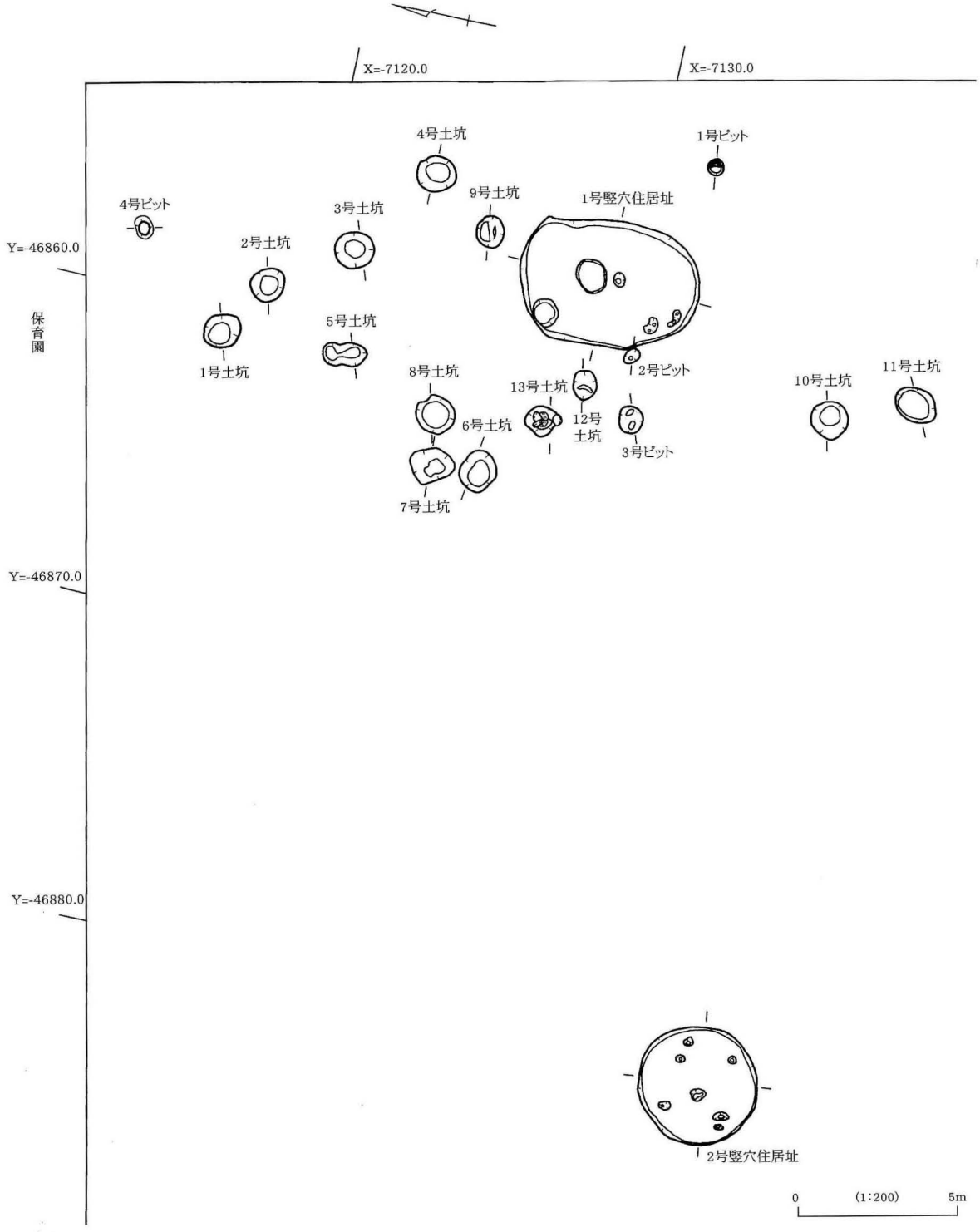
測量による記録作業は、遺構平面図及び遺構から出土した遺物は、平板及び簡易遣り方測量にて１：10、１：20縮尺で作図し、土層断面も１：10、１：20の縮尺で作図した。座標及び方位はトータルステーションを使用し、調査地全域を世界測地系の基準線を重ねて記録した。また、標高の基準点は、マンホールの蓋に任意のベンチマークを設け、調査区南部の蓋をＸ（718.384m)、調査区西側の蓋をＹ(719.705m）とした。写真による記録は、一眼レフデジタルカメラ撮影と、35mm一眼レフカメラによるカラーリバーサルフィルム撮影を行った。なお、本書に掲載した遺物写真は、一眼レフデジタルカメラにて撮影した。



第３図　調査区設定図（１：2,500)



第４図　調査区トレンチ設定及び遺構位置図


X=-7120.0
X=-7130.0
Y=-46860.0
Y=-46870.0
Y=-46880.0
保育園
4号土坑
1号ピット
4号ピット
9号土坑
3号土坑
1号竪穴住居址
2号土坑
1号土坑
5号土坑
2号ピット
8号土坑
13号土坑
10号土坑
11号土坑
12号土坑
6号土坑
3号ピット
7号土坑
2号竪穴住居址
0
(1:200)
5m

第５図　遺構位置図

第２節　土層堆積状況（第６図）

調査地は以前、水田として使用されていたため、表層に水田の耕土が堆積していた（Ⅰ層）。その下は酸化鉄を多く含む水田敷（Ⅱ層）、水田の造成土（Ⅲ層）、暗褐色の自然堆積土（Ⅳ層）、遺物包含層で、土器片や炭化物を多く含む暗褐色土（Ⅴ層）、Ⅴ層と類似しているが遺物を含まない暗褐色土（Ⅵ層）、自然堆積のオリーブ褐色土（漸移層・Ⅶ層）、黄褐色のローム（テフラ）層（Ⅷ層）の８層に分けられた。遺構確認面はⅦ層で、Ⅷ層まで掘り込まれる。各層の詳細は以下の通りである。

Ⅰ層　10ＹＲ２/２（黒褐色）水田の耕土。締り・粘性共に弱い。

Ⅱ層　５ＹＲ２/３（極赤褐色）水田敷。酸化鉄を多く含む。締りは強く粘性はやや強い。

Ⅲ層　10ＹＲ２/３（黒褐色）水田の造成土。ロームブロックを30％含む。締りは強く粘性はやや強い。

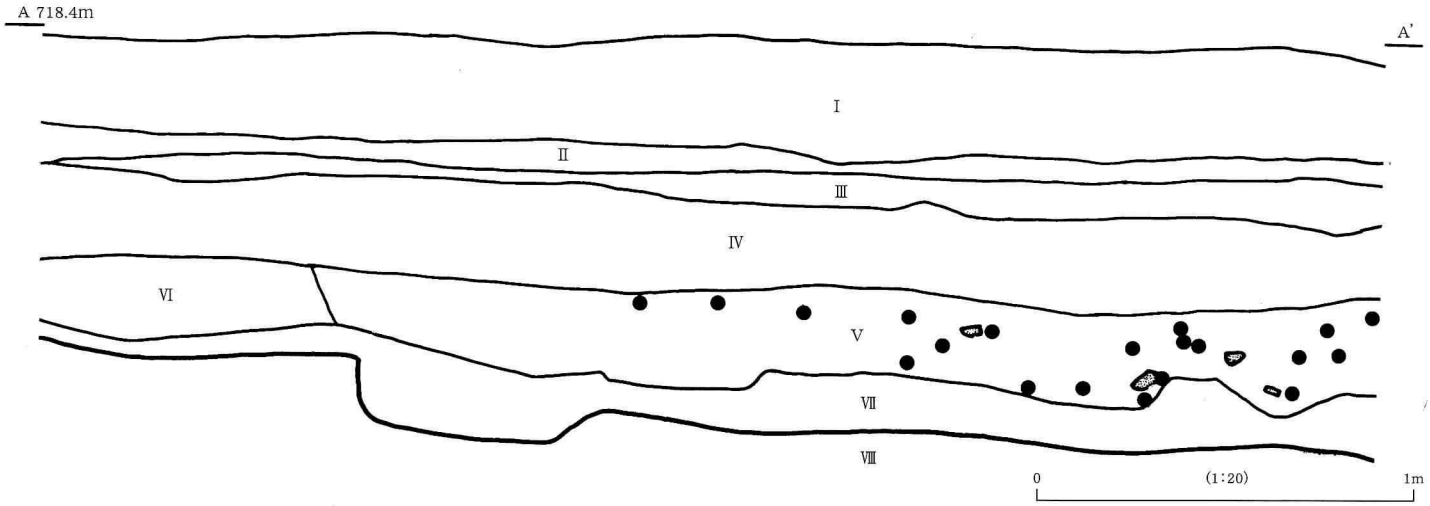
Ⅳ層　10ＹＲ３/３（暗褐色）ローム粒子を１％含む。締り・粘性共にやや強い。

Ⅴ層　10ＹＲ３/４（暗褐色）遺物包含層。ローム粒子１％、炭化物１％、土器片を多く含む。締り・粘性共にやや強い。

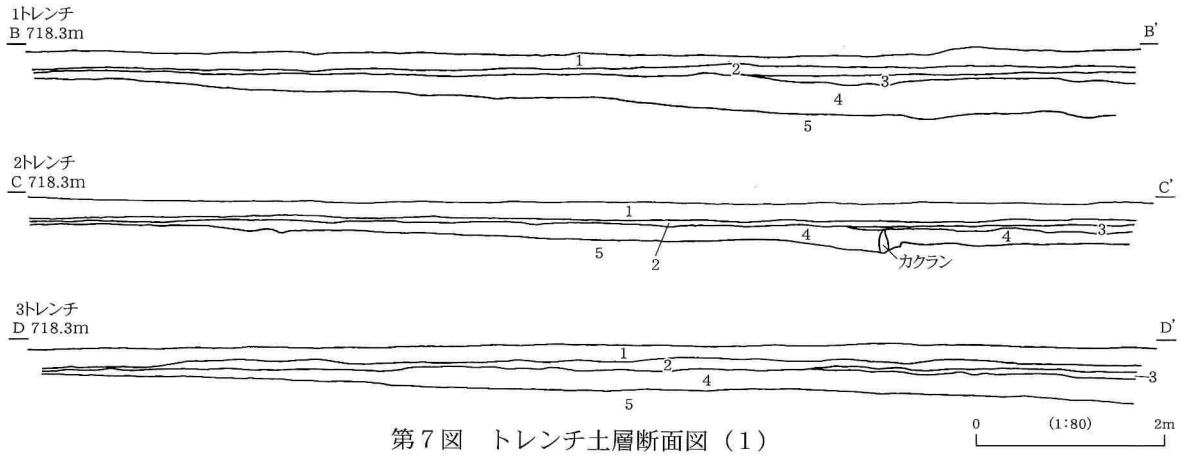
Ⅵ層　10ＹＲ３/４（暗褐色）ローム粒子10％含む。締り・粘性共にやや強い。

Ⅶ層　2.5Ｙ４/３（オリーブ褐色）漸移層。締り・粘性共にやや強い。

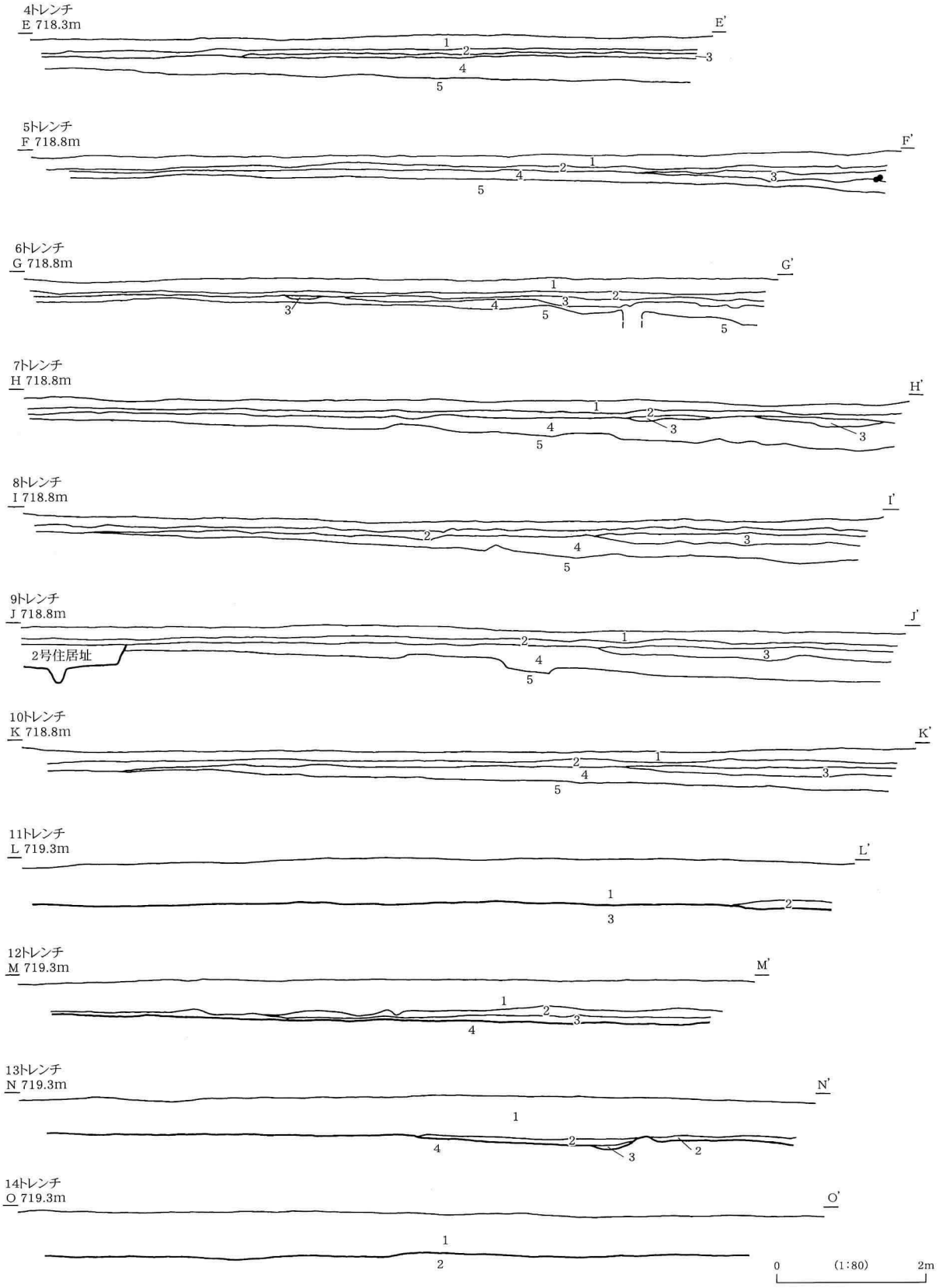
Ⅷ層　2.5Ｙ５/６（黄褐色）ローム（テフラ）層。締りはやや強く粘性は強い。



第６図　土層断面図



第７図　トレンチ土層断面図（１）



第８図　トレンチ土層断面図（２）

No.	覆　土	締り	粘性	出土遺物	備考
1					
2	1層　10ＹＲ4/2（灰黄褐色）水田の耕土	弱	弱		
3	2層　2.5YR3/6（暗赤褐色）水田敷　酸化鉄含む	極強	中		
4	3層　7.5YR3/2（黒褐色）水田の造成土	極強	中		
5	4層　10YR3/4（暗褐色）ローム粒子20％含む	中	中		
6	5層　10YR4/3（にぶい黄褐色）漸移層 ローム50％以上含む	中	強	剥片石器⑦	
7	1層　10YR2/2（黒褐色）　水田の耕土	弱	中		
8	2層　5YR2/3（極赤褐色）水田敷　酸化鉄含む	強	中		
9	3層　10YR2/2（黒褐色）水田の造成土 ロームブロック30％含む	強	中		
10	4層　10YR3/3（暗褐色）ロームブロック1％含む	中	中		
11	5層　2.5Y4/3（オリーブ褐色）漸移層	中	中		
12	1層　砕石（造成土） 2層　10YR2/2（黒褐色）ローム10％含む 3層　10YR5/6（黄褐色）ローム層	強 中	強 中		
13	1層　砕石（造成土） 2層　10YR2/3（黒褐色）　漸移層　ローム1％含む 3層　10YR3/3（暗褐色）　漸移層　ローム50％含む 4層　10YR5/6（黄褐色）ローム層	中 中 中	中 中 中		
14	1層　砕石（造成土） 2層　10YR3/3（暗褐色）　漸移層　ローム50％含む 3層　2.5Y4/3（オリーブ褐色）ローム30％含む 4層　10YR5/6（黄褐色）ローム層	中 強 中	強 強 中	深鉢３	
	1層　砕石（造成土） 2層　10YR5/6（黄褐色）ローム層	中	中		

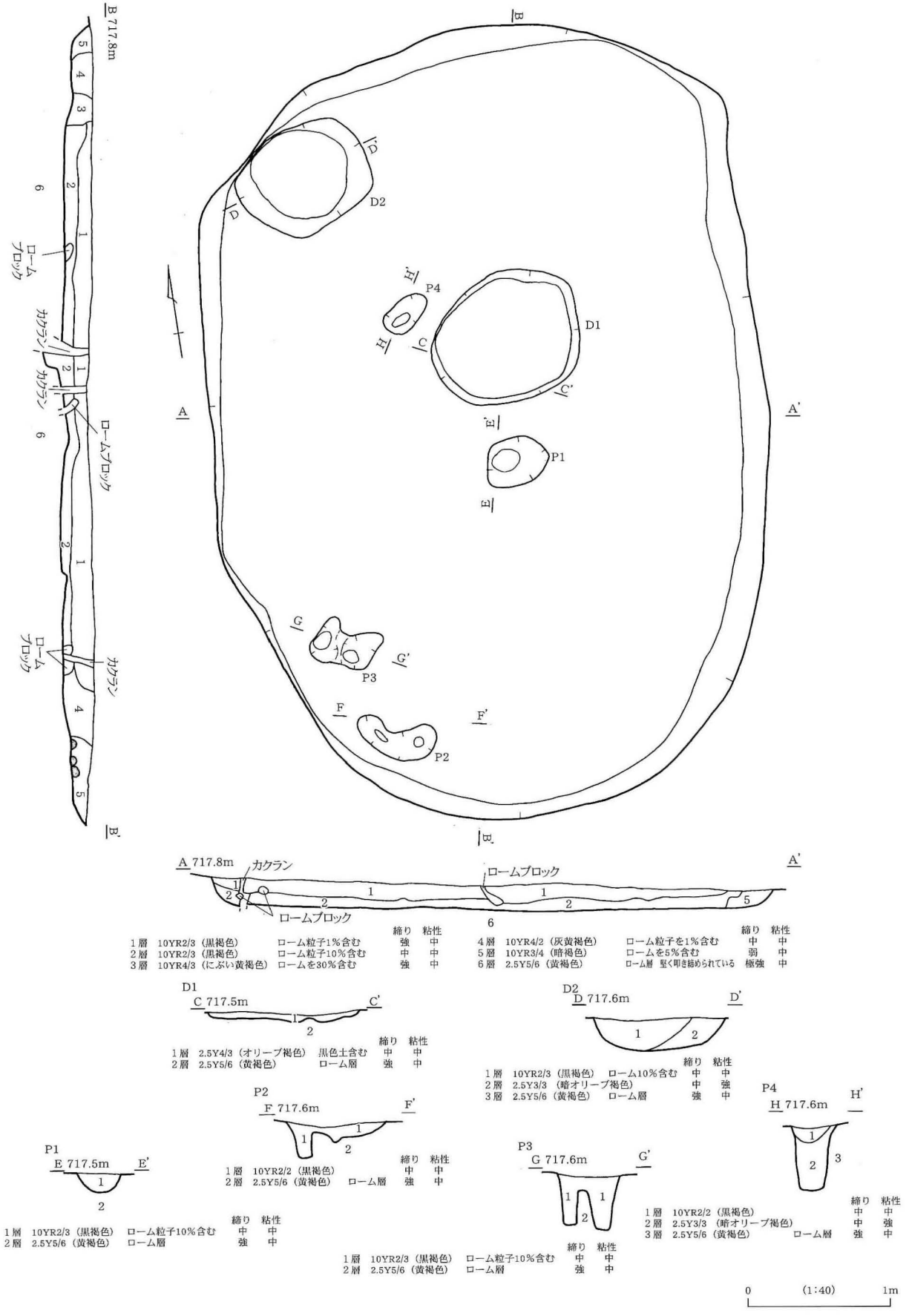
第２表　トレンチ土層一覧表

第３節　遺構と遺物

１　竪穴住居址

１号竪穴住居址（第９図）

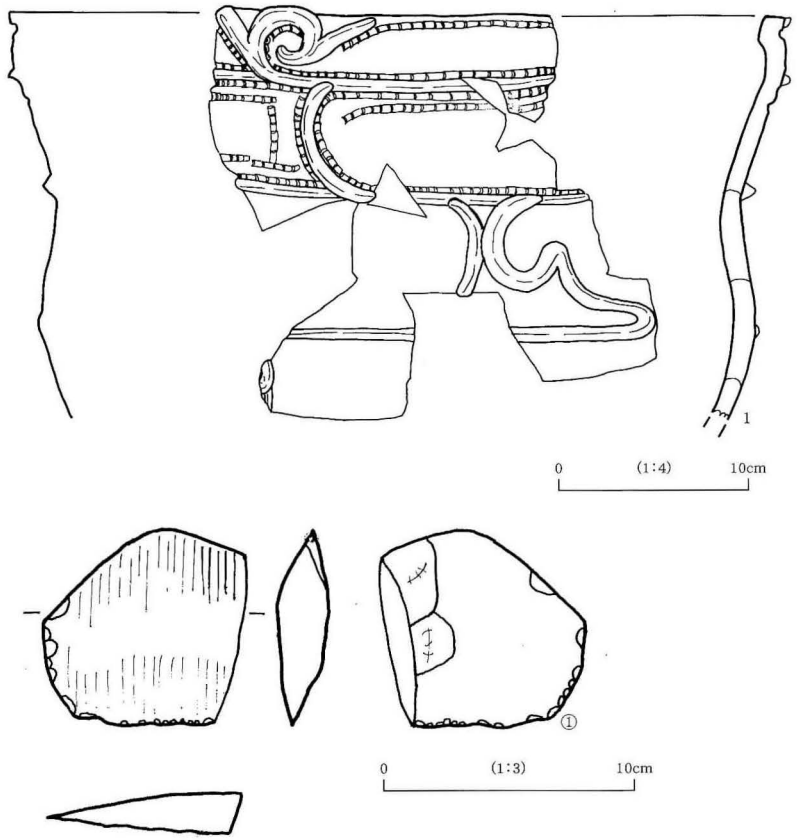
位置：調査区東部、世界測地系Ｘ＝－7129.00、Ｙ＝－46857.00に位置する。**主軸方向**：Ｎ－５°－Ｗ。**規模・形状**：長軸5.65m、短軸4.0mを測り、楕円形を呈する。**覆土**：６分層され、全体的にローム粒子が含まれていた。**床面・壁**：堅固な貼床がほぼ全域で確認された。壁残高は10㎝ ～15㎝ 確認され、傾斜は緩やかに立ち上がる。**炉**：炉は検出されなかった。また、床面に火焼状況を示す痕跡も確認できなかった。**柱穴**：形状から判断すると、Ｐ４が柱穴ではないかと思われる。**その他の施設**：その他土坑２基とピット３基が検出された。これらのピットは、形や深さから判断して柱穴と区別した。北西隅角に検出されたＤ２は、住居址の壁に接しており、位置的に考えるとこの住居址に伴わない土坑の可能性もある。**遺物**：出土は少なかったが、深鉢（１）が出土した。隆帯で楕円形状に区画されており、その周りを押引沈線が施されている。口縁部は円形の隆帯で施文する。縄文時代中期前葉のものと思われる。また、石器では石匙①が出土した。各遺物の特徴は、観察表（第４～７表）を参照されたい。**時期**：縄文時代中期と推測する。



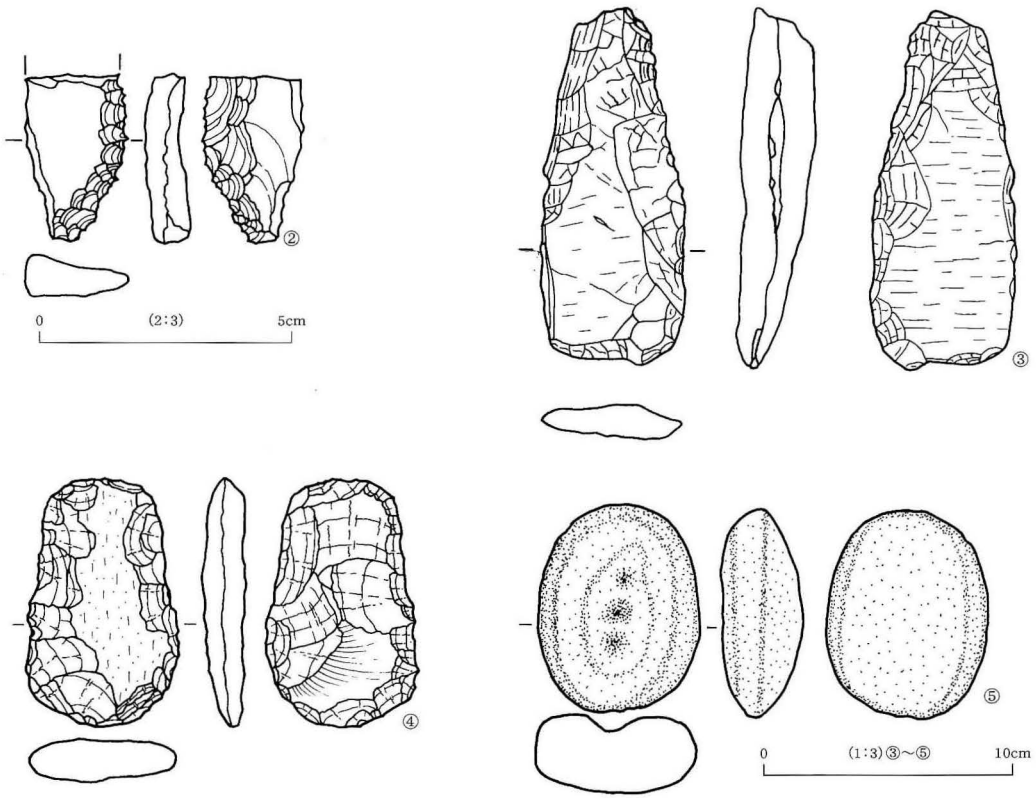
第９図　１号竪穴住居址・土坑・ピット実測図

２号竪穴住居址（第12図）

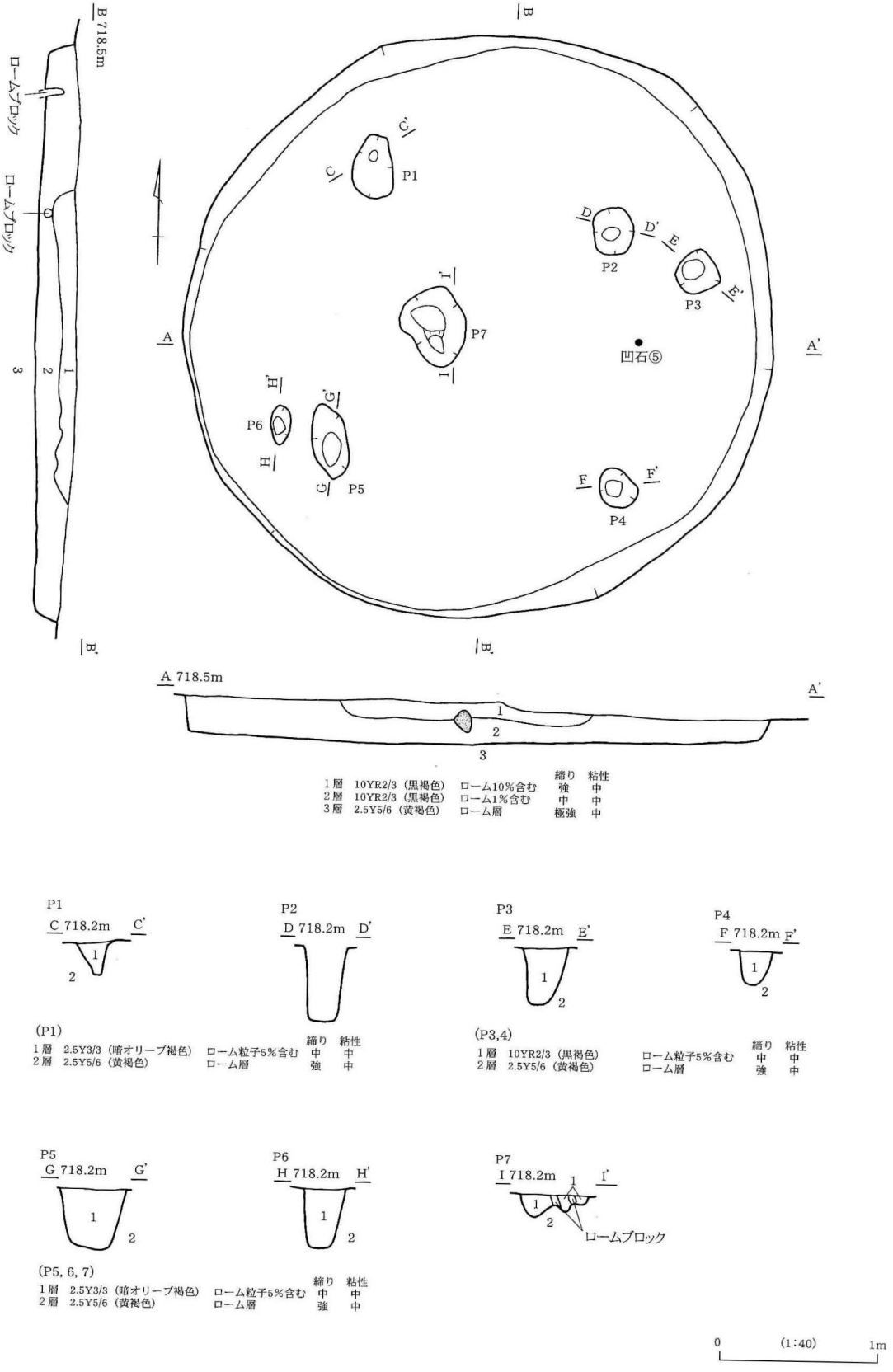
位置：調査区中央部、世界測地系Ｘ＝－7147.25、Ｙ＝－46881.60に位置する。**主軸方向**：不明。**規模・形状**：長軸3.80m、短軸3.77mを測り、円形を呈する。**覆土**：３分層される。全体的にロームが含まれていた。**床面・壁**：堅固な貼床がほぼ全域で確認された。壁残高は13cm～22cmで、傾斜はほぼ垂直に立ち上がる。**炉**：炉は検出されなかった。また、床面に火焼状況を示す痕跡も確認できなかった。**柱穴**：形状から推測するとＰ２、Ｐ３、Ｐ５、Ｐ６が柱穴ではないかと思われる。**その他の施設**：その他ピットが３基検出されたが、形や深さから判断して柱穴とは区別した。**遺物**：土器は縄文土器片が僅かに出土しただけで、形になるものはなかった。石器は黒曜石製の削器？②、打製石斧③,④は覆土から、凹石⑤は床面直上から出土した。**時期**：縄文時代中期と推測する。



第10図　１号竪穴住居址出土土器・石器実測図



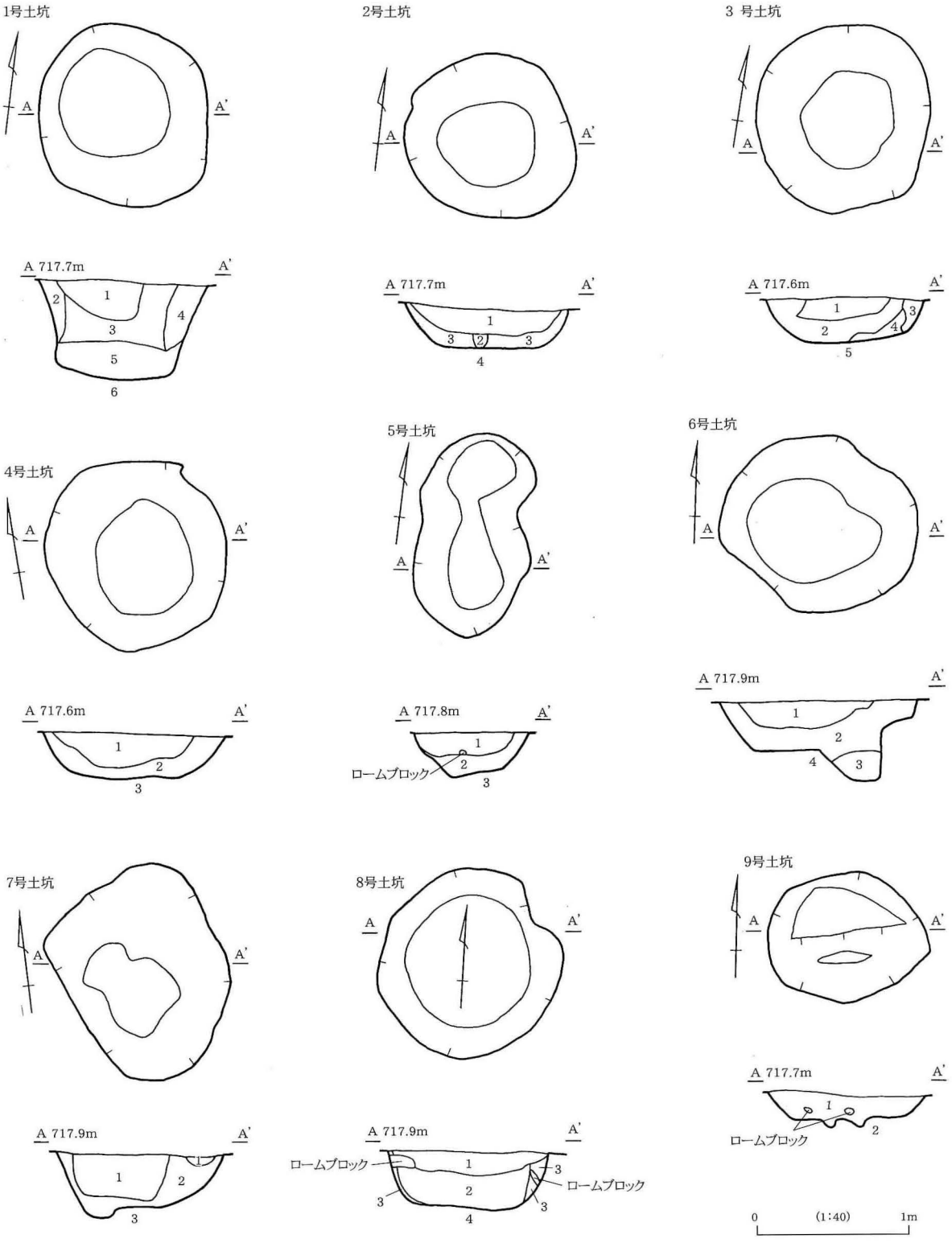
第11図　２号竪穴住居址出土石器実測図



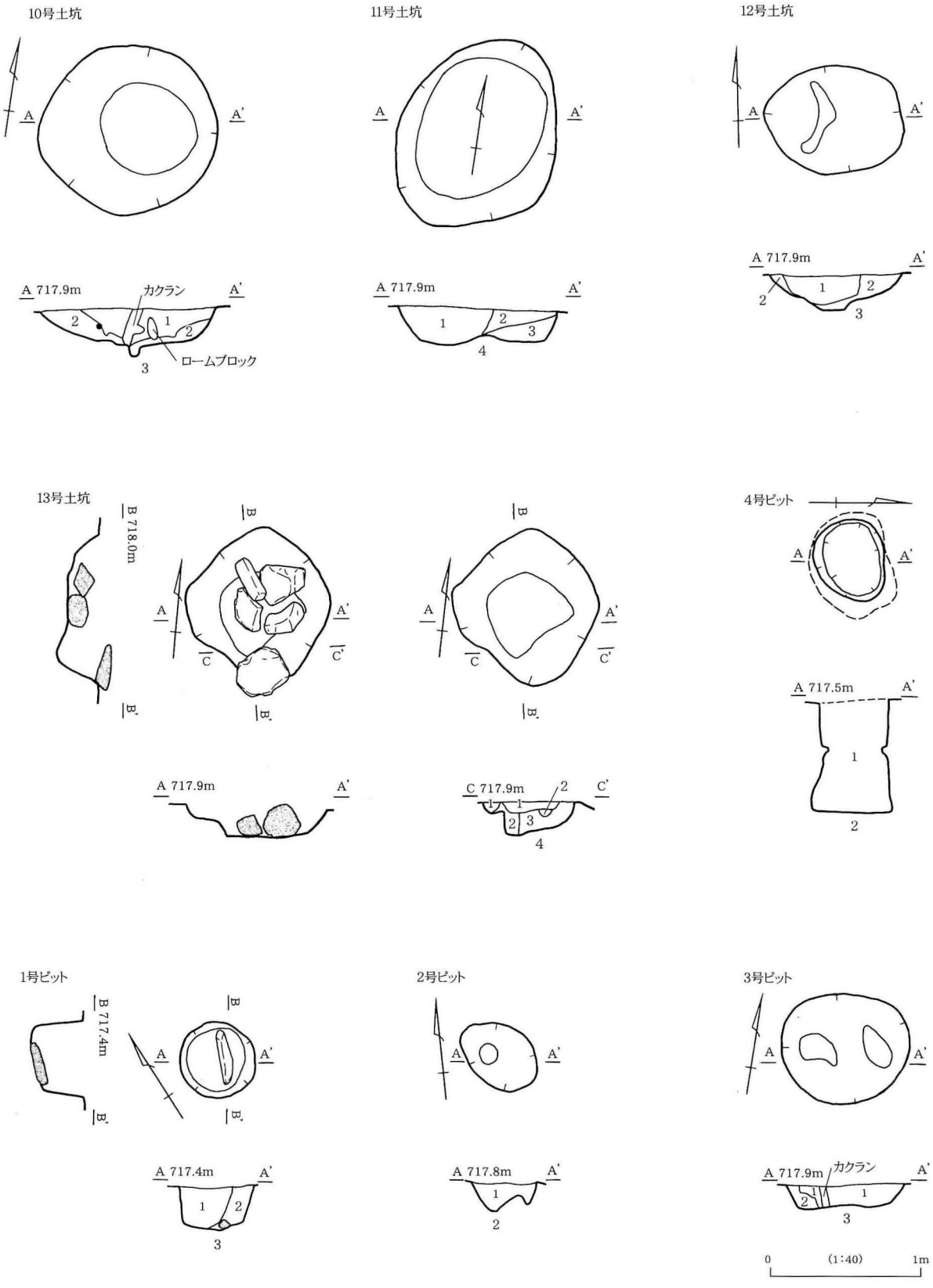
第12図　2号竪穴住居址実測図

2　土坑・ピット（第13、14図）

土坑13基、ピット４基が検出された（直径90㎝ 以上のものを土坑、以下ものをピットとした）。土坑は調査区の北東側に検出された。出土遺物は少なく、ほとんどが縄文時代中期の土器片である。３号土坑から土製円盤[1]が出土し、９号土坑からは口縁部に押引沈線で施文された浅鉢（２）、10号土坑からは土偶[2]と磨製石斧⑥が出土した。詳細は土坑一覧表（第３表）・ピット一覧表（第４表）を参照されたい。



第13図　土坑実測図



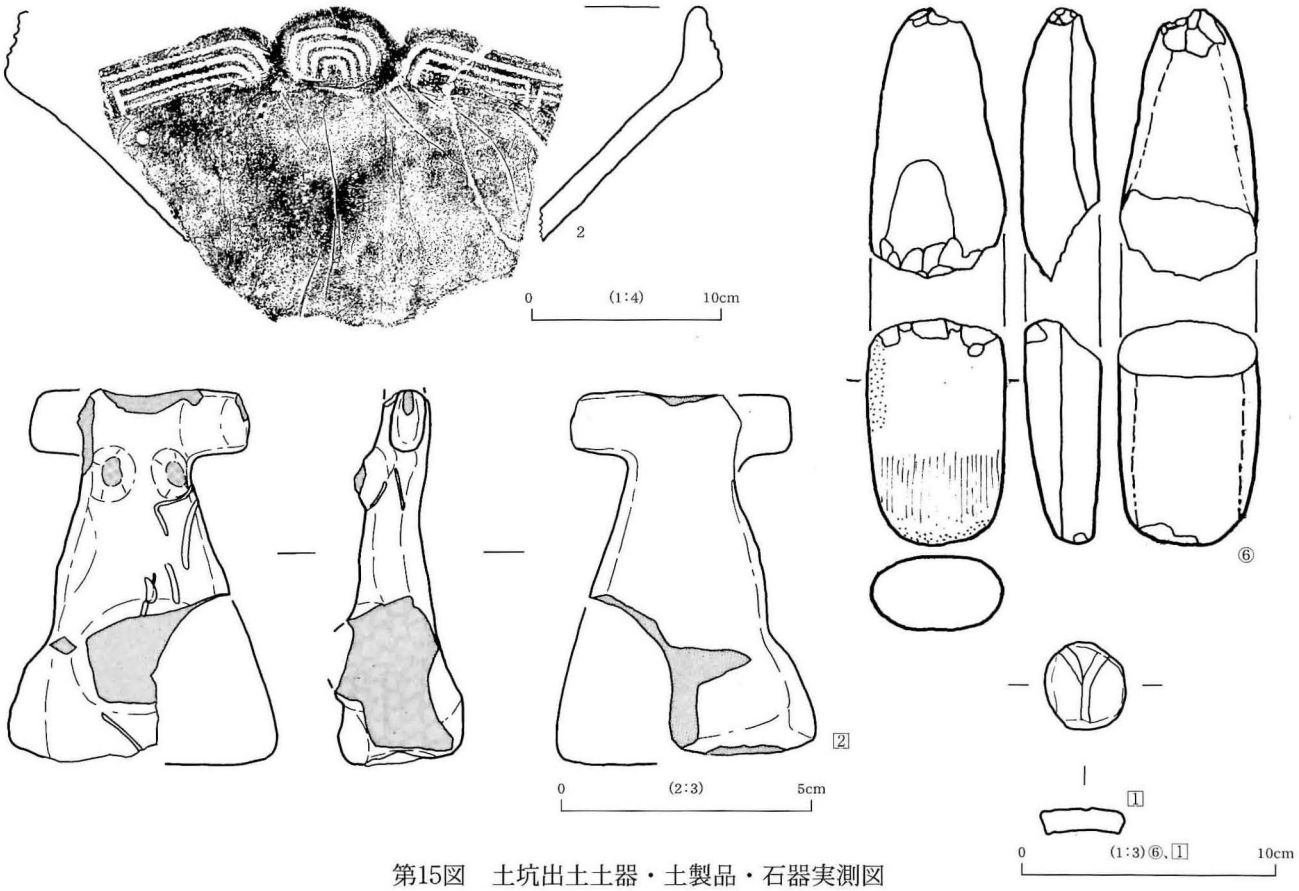
第14図　土坑・ピット実測図

No.	規模（cm）			平面形	断面形	覆　土	締り	粘性	出土遺物	備考
	長	短	深							
1	127	115	66	円形	台形	1層　10YR2/3（黒褐色）土器片含む 2層　2.5Y5/6（黄褐色）黒色土10％含む 3層　10YR2/3（黒褐色）ローム20％含む 4層　2.5Y4/4（オリーブ褐色）ローム20％含む 5層　10YR2/2（黒褐色）ローム5％含む 6層　2.5Y5/6（黄褐色）ローム層	強 中 中 中 中 中	中 中 中 中 強 強		
2	121	107	25	円形	浅い半円	1層　10YR2/3（黒褐色）ローム10％含む 2層　2.5Y4/4（オリーブ褐色） 3層　10YR4/3（オリーブ褐色） 4層　2.5Y5/6（黄褐色）ローム層	中 中 中 中	中 中 強 強		
3	126	112	31	円形	浅い半円	1層　10YR2/3（黒褐色）ローム10％含む 2層　10YR2/3（黒褐色）ローム20％含む 3層　2.5Y3/3（黄褐色）黒色土10％含む 4層　2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）ローム30％含む 5層　2.5Y5/6（黄褐色）ローム層	強 中 中 弱 中	中 中 中 中 中	土製円盤[1]	
4	130	115	29	円形	浅い半円	1層　10YR2/3（黒褐色）ローム10％含む 2層　2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）ローム30％含む 3層　2.5Y5/6（黄褐色）ローム層	中 中 中	中 中 強		
5	137	65	29	不整形	台形	1層　10YR2/3（黒褐色）ローム10％含む 2層　2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）ローム30％含む 3層　2.5Y5/6（黄褐色）ローム層	中 中 中	中 中 強		
6	130	105	13	楕円形	不整形	1層　10YR2/3（黒褐色）ローム10％含む 2層　2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）ローム30％含む 3層　10YR2/3（黒褐色）ローム20％含む 4層　2.5Y5/6（黄褐色）ローム層	中 中 中 中	中 中 強 強		
7	145	101	41	不整形	不整形	1層　10YR2/3（黒褐色）ローム10％含む 2層　2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）ローム30％含む 3層　2.5Y5/6（黄褐色）ローム層	中 中 中	中 中 強		
8	127	110	38	円形	台形	1層　10YR2/3（黒褐色）ローム10％含む 2層　10YR2/3（黒褐色）ローム粒子10％含む 3層　2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）ローム30％含む 4層　2.5Y5/6（黄褐色）ローム層	中 中 中 中	中 中 中 強		
9	109	85	24	楕円形	台形	1層　10YR2/3（黒褐色）ローム10％含む 2層　2.5Y5/6（黄褐色）ローム層	中 中	中 強	浅鉢２	
10	122	110	42	円形	浅い半円	1層　10YR3/2（黒褐色）ローム粒子1％含む 2層　10YR4/2（灰黄褐色）ローム50％含む 3層　2.5Y5/6（黄褐色）ローム層	中 中 中	中 中 中	土偶[2] 磨製石斧⑥	
11	138	104	26	楕円形	不整形	1層　10YR4/2（灰黄褐色）ローム粒子10％含む 2層　10YR2/2（黒褐色）ローム1％含む 3層　10YR4/2（灰黄褐色）ローム50％含む 4層　2.5Y5/6（黄褐色）ローム層	中 中 中 中	中 中 中 中		
12	95	73	22	楕円形	浅い半円	1層　10YR2/3（黒褐色）ローム1％含む 2層　10YR2/3（黒褐色）ローム10％含む 3層　2.5Y5/6（黄褐色）ローム層	中 中 中	中 中 中		
13	107	85	23	不整形	不整形	1層　10YR2/3（黒褐色）ローム粒子1％含む 2層　2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）ローム50％以上含む 3層　10YR3/3（暗褐色）ローム粒子10％含む 4層　2.5Y5/6（黄褐色）ローム層	中 強 中 中	中 中 中 中		集石あり

第３表　土坑一覧表

No.	規模（cm）			平面形	断面形	覆　土	締り	粘性	出土遺物	備考
	長	短	深							
1	55	49	30	円形	台形	1層　2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）ローム30％含む 2層　10YR4/3（オリーブ褐色）ローム20％含む 3層　2.5Y5/6（黄褐色）ローム層	中 中 中	中 中 強		
2	58	37	20	楕円形	不整形	1層　10YR2/3（黒褐色）ローム粒子1％含む 2層　2.5Y5/6（黄褐色）ローム層	強 中	中 中		
3	86	74	17	円形	台形	1層　10YR2/3（黒褐色）ローム粒子1％含む 2層　10YR2/3（黒褐色）ローム粒子10％含む 3層　2.5Y5/6（黄褐色）ローム層	中 中 中	中 中 中		
4	57	40	(76)	楕円形	U字形	1層　2.5Y4/3（オリーブ褐色）ローム30％含む 2層　2.5Y5/6（黄褐色）ローム層	中 中	中 中		底部が袋状に広がる

第４表　ピット一覧表

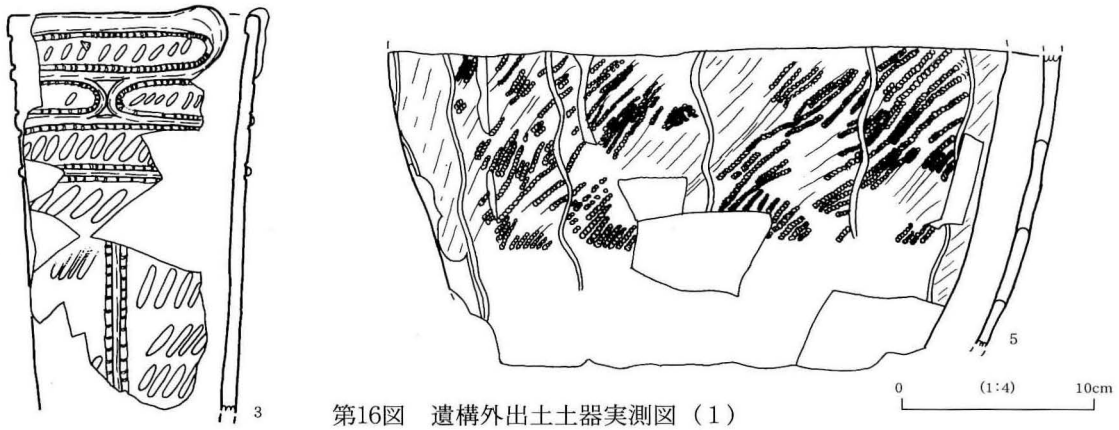


第15図　土坑出土土器・土製品・石器実測図

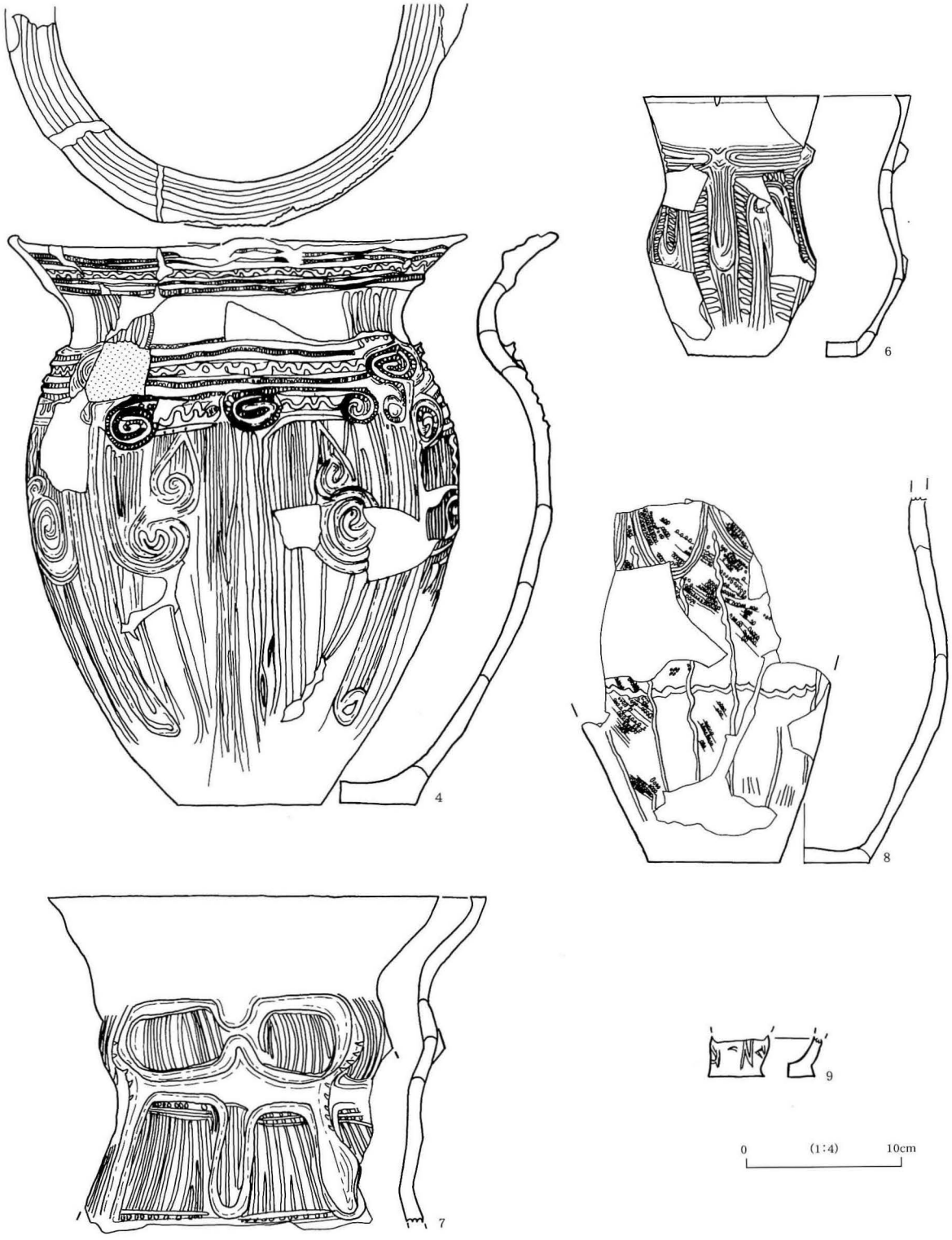
3　遺構外出土遺物（第16～20図）

今回の調査では、調査区北東隅と東側の遺物包含層（Ⅴ層）から縄文時代の土器片が大量に出土した。特に北東隅では多く出土し、遺構の可能性も考えられたが、その痕跡はみられなかったため、低地に土器を破棄したものと推測した。

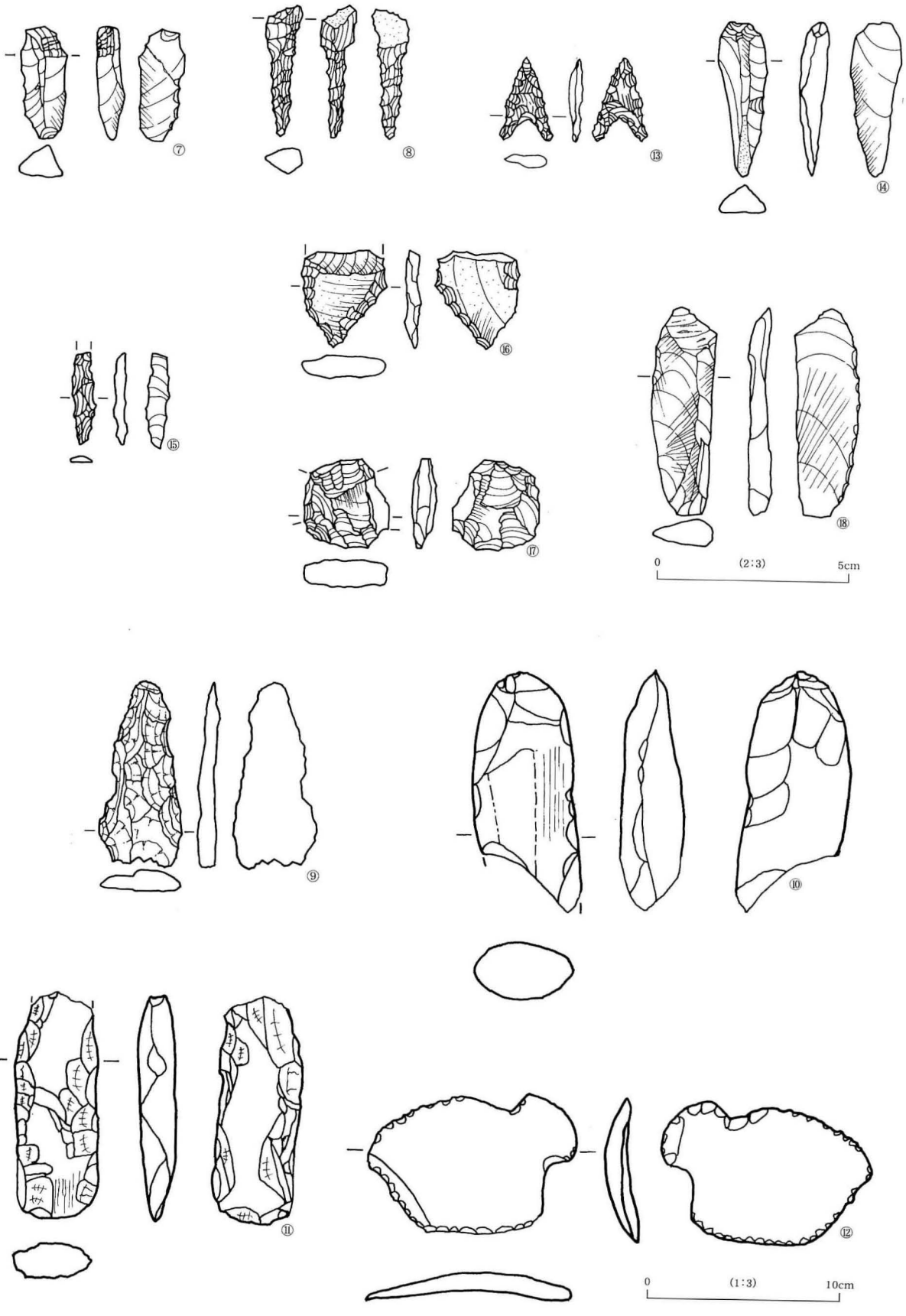
出土した土器片の主体は縄文時代中期で、前葉から後葉にかけてのものが多く出土した。復元できた土器は縄文時代中期前葉（3）と後葉（4～9）のものであった。13トレンチから出土した深鉢（3）は胎土に少量の黒曜石を含み、最大のものは直径が約4㎜あった。意図的な混入ではなく、成形の際、胎土に黒曜石片が混ざり込んだものと推測する。また、北東隅から出土した縄文土器（4）は、胴部に唐草文を施した縄文時代中期後葉の土器だが、形状及び文様が当町出土の土器としては大変珍しく、胎土も異質である。この形状は、天竜川沿線でもあまりみられないタイプではないかと推察する。石器は石鏃⑬、石錐⑧、打製石斧⑨～⑪、⑲⑳、石匙⑫などが出土した。



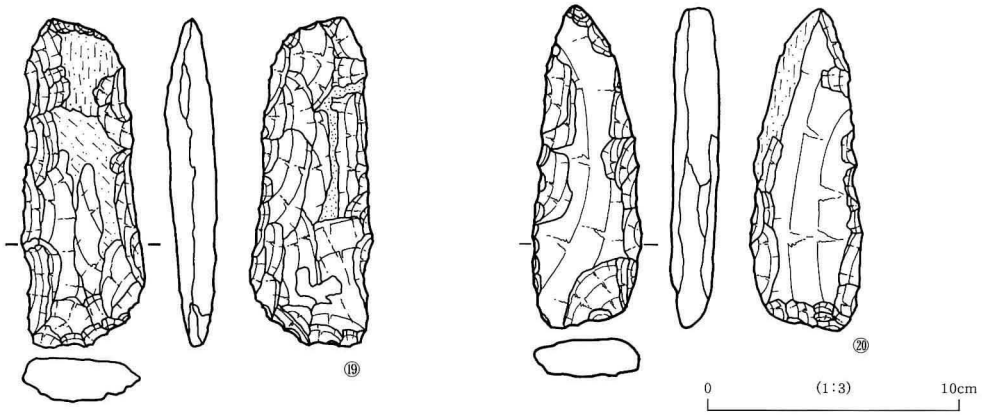
第16図　遺構外出土土器実測図（1）



第17図　遺構外出土土器実測図（2）



第18図　遺構外出土石器実測図（1）



第19図　遺構外出土石器実測図（２）

No.	検出箇所	種別	器種	法量			残存度	成形	調整	特徴（文様）	色調	胎土	焼成	備考
				口径	底形	器高								
1	1号住	縄文土器	深鉢	<41.2>	—	(21.5)	5	輪積み	内面-ナデ	胴中上位でくびれるキャリパー形。楕円形の隆帯で区画し、その両脇に押引沈線を施す。	7.5YR4/4（褐色）	雲母・砂粒含む	良好	底部欠損
2	9号土坑	縄文土器	浅鉢	(35.6)	—	(12.4)	10	輪積み	内面-ナデ	口縁部に押引沈線で施文。胴部は無文。	5YR5/6（明赤褐色）	砂粒含む	良好	底部欠損
3	遺構外（13トレンチ）	縄文土器	深鉢	<13.0>	—	(21.8)	50	輪積み	内面-ナデ	口縁から胴部にすぼまりながら垂下。楕円形の隆帯で区画し、その両脇に押引沈線を施す。胴部は斜沈線。	10YR8/6（黄橙色）	長石・雲母・砂粒・黒曜石含む	良好	底部欠損 黒曜石は最大直径4㎜あり
4	（北東隅）	縄文土器	深鉢	29.8	9.2	36.4	80	輪積み	内面-ナデ	胴中上位でくびれるキャリパー形。口縁部内外に波状文やで刺突文で文様を施す。胴部は唐草文を施文し、その間を垂下する沈線で充填する。	10YR8/6（黄橙色）	砂粒含む	良好	
5		縄文土器	深鉢	—	—	(17.4)	40	輪積み	内面-ナデ	胴部から底部にすぼまりながら垂下する。地文はLR縄文で、一定間隔をおいて蛇行沈線を垂下させる。	2.5YR5/8（明赤褐色）	長石・雲母・砂粒含む	良好	
6		縄文土器	小型深鉢	(11.5)	(4.9)	17.2	35	輪積み	内面-ナデ	胴中上位でくびれるキャリパー形。頸部は隆帯で楕円形を作り、同様の隆帯文で胴部を四区画に分ける。その間を隆帯と沈線で充填する。	5YR5/6（明赤褐色）	長石・雲母・石英・砂粒含む	良好	胴部のみ
7		縄文土器	深鉢	25.3	—	(22.0)	50	輪積み	内面-ナデ	口縁部は無文でラッパ状に広がる。頸部にメガネ状の隆帯を施し、内部を垂下する沈線で埋める。	5YR6/6（橙色）	砂粒含む	良好	
8		縄文土器	深鉢	—	8.6	(23.5)	30	輪積み	内面-ナデ	胴部が膨らみ底部ですぼまるキャリパー型。蛇行沈線を縦と横に施文。地文はRL縄文を施すが摩耗している。	7.5YR6/4（にぶい橙色）	長石・雲母・石英・砂粒含む	良好	底部欠損
9	（その他）	縄文土器	ミニチュア土器	—	3.5	(2.7)	80	輪積み		沈線で施文。	7.5YR4/3（褐色）	雲母・小礫含む	良好	口縁部欠損 内面すす付着

第５表　出土土器観察表

No.	検出箇所	器種	法量				色調	胎土	焼成	備考
			長さ	幅	厚さ	重さ				
1	3号土坑	土製円盤	3.45	3.1	0.85	11	2.5YR3/6（暗赤褐色）	長石含む	良好	Y字沈線を施文
2	10号土坑	土偶	(7.3)	(3.5)	(2.5)	(40)	内面-7.5YR4/4（褐色） 外面-7.5YR3/2（黒褐色）	長石・雲母・石英・砂粒含む	良好	左手・胴部・右足のみ。乳房と思われる突起が２つあり、へそは刺突文で表現。腹部は欠損しているが膨らみを帯び、妊婦と思われる。脚部中央に欠損部分がみられるので、先端部があると思われる。

第６表　出土土製品観察表

第20図　遺構外出土土器拓影図

No.	検出箇所	器　種	材　質	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	備　　考
1	1号住	石匙	砂岩	7.9	(7.8)	(2.05)	(110)	
2	2号住	削器？	黒曜石	(3.3)	2.2	(0.75)	(5.9)	先端のみ　未完成形
3		打製石斧	砂岩	11.5	5.7	2.95	210	短冊形　完形
4		打製石斧	砂岩	9.4	5.5	1.5	100	撥形　完形　片面に一部自然面を残す
5		凹石	安山岩	8.5	6.4	3.2	210	完形
6	10号土坑	磨製石斧	緑泥岩	(2.0)	5.2	(3.1)	(490)	短冊形
7	(6トレンチ)	剥片石器	黒曜石	3.0	1.2	0.65	1.9	完形
8	遺構外	石錐	黒曜石	3.5	1.2	0.85	1.2	完形　断面三角形
9		打製石斧	緑泥石？	(9.8)	(4.3)	0.9	(40)	短冊型　裏面は調整痕なし　先端欠損
10		打製石斧	緑泥石	(12.6)	(5.3)	(3.25)	(270)	
11	(北東隅)	打製石斧	粘板岩	(12.1)	(4.1)	2.0	(130)	短冊形　完形
12		石匙	砂岩	10.8	7.3	1.25	101	完形
13	(2トレンチ東)	石鏃	黒曜石	2.2	1.1	0.35	0.5	無茎凹基　完形
14		剥片石器	黒曜石	4.0	1.2	0.65	2.0	完形
15	(その他)	石錐？	黒曜石	(2.4)	0.5	0.25	(0.2)	未完成形と思われる
16		削器？	黒曜石	(2.6)	2.1	(0.4)	(2.2)	未完成形
17		掻器？	黒曜石	(2.3)	2.1	0.6	(3.7)	
18		剥片石器	黒曜石	5.3	1.6	0.55	5.5	完形　剥片の側縁部使用痕あり
19		打製石斧	粘板岩	12.2	4.5	1.75	110	短冊形　完形　片面に自然面を残し一部磨きあり
20		打製石斧	緑泥変岩	12.9	4.3	1.8	130	短冊形　完形

第７表　出土石器観察表

第4章　総　　括

今回の発掘調査は、広範囲に及ぶ遺跡の一部という事もあり、遺跡全体の様相を明らかにする事はできなかった。また、不勉強のため、調査及び整理作業について十分なものとは言えず、本報告書の編集においても不十分な点は了承されたい。しかし、１次調査からの結果も踏まえて、遺跡の性格の一端を解明する事ができた事は大きな成果であったと言える。ここでは検出した遺構と出土遺物について若干の所見を付け加え総括としたい。

今回の調査箇所は、１～３次調査が行われた段丘の突端部から約160m西側にあり、境界線が曖昧な遺跡の西部に位置している。集落の中心は、以前調査が行われた段丘突端部であると思われるため、今回の調査地では遺構・遺物共にあまり検出されないのではないかとも考えられたが、調査の結果、竪穴住居址２軒、土坑13基、ピット４基が検出され、遺物も多く出土した。

今回検出された２軒の竪穴住居址は、形状や大きさに違いはあるものの、炉及び火焼面が確認されない点で共通している。２号竪穴住居址の詳細な使用時期が不明なため、２つの住居址の関係性は不明だが、１～３次調査において遺跡の東部ではほとんど検出されなかった「炉のない住居址」が当該地で２軒検出された事は興味深い。

土坑は13基検出され、円形で形状の整った土坑が多く検出された。この中で特出する土坑は10号土坑である。この土坑の覆土からは、破損した土偶と磨製石斧が出土し、他の土坑と比べて比較的遺物の出土量が多かった。あるいは墓のような性質を帯びた土坑の可能性も考えられるが、推測の域を出ない。

遺物は、調査区北東隅の遺物包含層（Ⅴ層）から大量に出土したが、遺構の痕跡はないため、窪みのある低地に遺物を破棄したものと判断した。ここで出土した土器片は、縄文時代中期初頭から後葉まで比較的長い時期にわたるが、復元できた土器はほとんど後葉のものであった。石器の出土も多く、石錐や打製石斧等が出土している。この地点で出土した遺物が全体の７割を占め、遺構内から出土した遺物は少なかった。

また、町道115号線の西側の保育園駐車場造成工事の立会調査では、耕土直下にローム層が堆積しているのが確認できた。そのため、それより西には遺構がないものと考えられ、遺跡の境界が不明確だった丸山遺跡西部においては、町道115号線が概ね境界線であると考えられる。今回の調査により、丸山遺跡は段丘先端の西230m付近まで及んでいることが確認された。それに比べて、丸山遺跡から沢地を挟んだ北側の蕗原神社上遺跡からはあまり遺構・遺物が出土しないことを考察すると、旧桑沢川は丸山遺跡北側の沢地を流れ、丸山遺跡にくらした人々はこの水も利用していたのかもしれない。

以上、調査の成果も踏まえながら各遺構・遺物に対する推測を述べた。本遺跡は箕輪町の歴史を考える上でも重要な遺跡である事は間違いないが、今回調査した箇所は遺跡の一部であり、全容を解明するためには更なる調査が必要と思われる。

本書の末筆にあたり、調査の成果が郷土の歴史と文化を解明する上で有意義に活用され、より多くの人に文化財保護に関心を持っていただければ幸いである。調査の進行と本書の作成にあたり、ご支援ご協力をいただいた沢保育園の関係者の皆様、沢区の皆様、暑い中作業にあたって頂いた作業員の皆様、そして調査にご協力いただいた全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

参考・引用文献（著者名50音順）

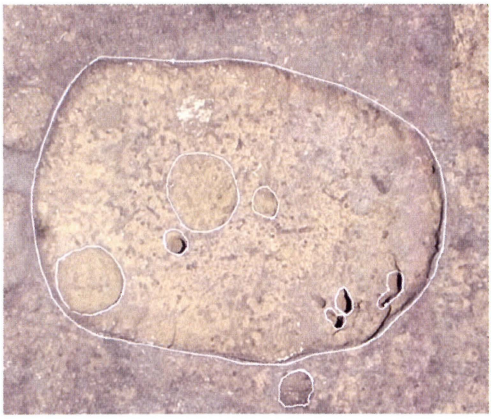
小林達夫編	1988『縄文土器大観２　中期Ⅰ』　小学館
小林達夫編	1988『縄文土器大観２　中期Ⅱ』　小学館
鈴木道之助	1981『図録　石器の基礎知識Ⅲ　縄文』　柏書房
鳥居龍蔵	1926『先史及原始時代の上伊那』
松島信幸	1995『伊那谷の造地形史　伊那谷の活断層と第四期地質』
伊那市教育委員会・上伊那地方事務所	1992『小黒南原・伊勢並遺跡』
長野県史刊行会	1988『長野県史』考古資料編　全１巻（４）遺構・遺物編
箕輪町誌編纂刊行委員会	1976『箕輪町誌』第１巻　自然・現代編
箕輪町誌編纂刊行委員会	1986『箕輪町誌』第２巻　歴史編
箕輪町教育委員会	1990『丸山遺跡』
箕輪町教育委員会	1994『丸山遺跡』（第２次）
箕輪町教育委員会	1994『丸山遺跡』（第３次）
箕輪町教育委員会	2009『上の林遺跡』（第７次）
箕輪町教育委員会	2010『一の宮遺跡』
箕輪町教育委員会	1997『箕輪町遺跡詳細分布調査報告書』

調査前（南から）

重機による掘り下げ

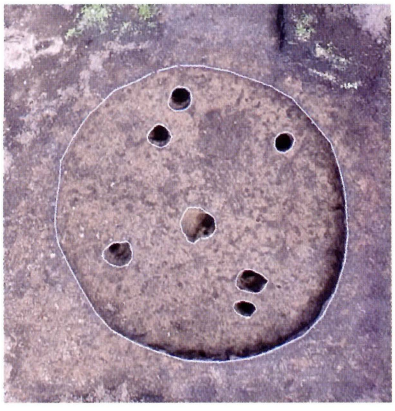
作業風景

北東隅土器出土状況



１号竪穴住居址（上空から）
※左側が北

１号竪穴住居址Ｐ４（東から）



２号竪穴住居址（上空から）
※左側が北

２号竪穴住居址Ｐ２（南から）

図版2

1号土坑（南から）

3号土坑（南から）

10号土坑（南から）

13号土坑集石（北から）

1号ピット（南から）

4号ピット（東から）

箕輪北小学校3年生見学

発掘調査団の皆さん

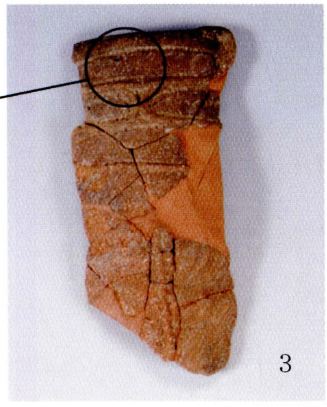
4

6

9

1

5

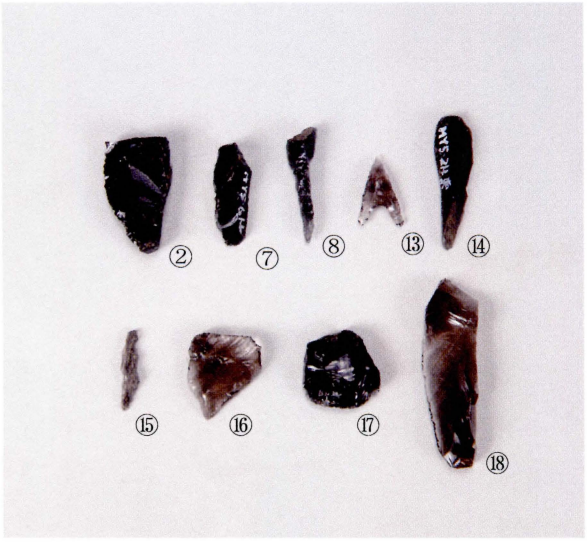

3

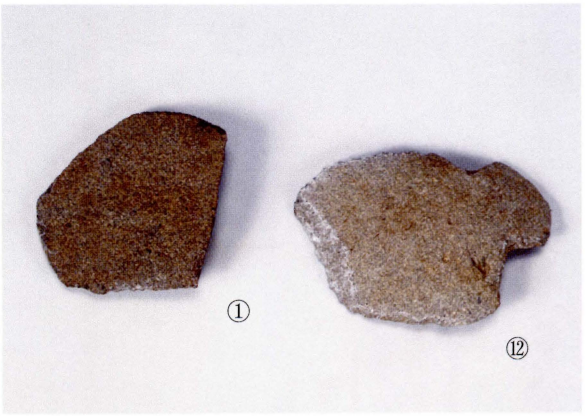
7

図版4

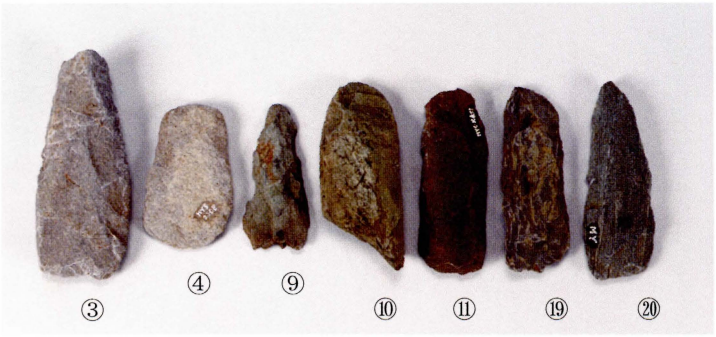
8

土器片


②
⑦
⑧
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
⑱


①
⑫

⑤
⑥


③
④
⑨
⑩
⑪
⑲
⑳

2

1

報 告 書 抄 録

ふりがな	まるやまいせき
書名	丸山遺跡
副書名	平成28年度沢保育園建設事業に伴う埋蔵文化財第五次緊急発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
著者名	柴 秀毅　井澤 はずき
編集機関	箕輪町教育委員会
所在地	長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪10,291番地　（代）Tel0265－79－3111
発行年月日	2017年3月22日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
丸山遺跡 （まるやまいせき）	長野県上伊那郡 （ながのけんかみいなぐん） 箕輪町大字 （みのわまちおおあざ） 中箕輪1891番地 （なかみのわ） 他	20383	10	35° 56′ 04″	137° 58′ 50″	2016.4.27 ～ 2017.3.22	2800	保育園 建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
丸山遺跡	集落址	縄文時代	住居址　2軒 土坑　13基 ピット　4基	縄文土器、土製品、石器	縄文時代中期の住居址

要約

住居址２軒と、土坑13基、ピット４基を検出した。２軒とも炉のない住居址で、出土遺物から縄文時代中期のものと推測される。土坑からは縄文時代中期の遺物が多く出土し、10号土坑からは土偶が出土した。また、調査区北東隅からは大量の遺物が出土した。

丸 山 遺 跡

平成28年度沢保育園建設事業に伴う
埋蔵文化財第五次緊急発掘調査報告書

平成29年３月発行

編集・発行　箕輪町教育委員会

印　　刷　龍共印刷株式会社